

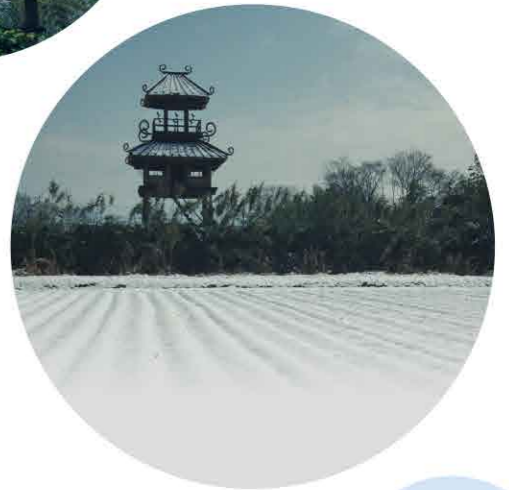
町勢要覧2017

田原本町合併60周年記念

田原本町

いいね！がいっぱい
飛び出す未来へ

だれが
遊ばせ
実感
できる町



唐古・鍵遺跡
キャラクター
「楼閣くん」

いいね! たわらもと



田原本町 町勢要覧 2017

発行 田原本町
奈良県磯城郡田原本町890-1 TEL.0744(32)2901
発行日 平成29年3月

Index

特集

Karako & Kagi Ruins
唐古・鍵遺跡 p3~12

- ・遺跡調査のあゆみ P3-4
- ・唐古・鍵遺跡がもつ4つの顔 P5-6
- ・みえてきた弥生の巨大なムラ P7
- ・唐古・鍵考古学ミュージアム P8
- ・唐古・鍵遺跡史跡公園 P9-10
- ・道の駅「レスティ 唐古・鍵」 P11-12

Historical Background of This Area
まちの歴史 p13~20

- ・記紀ゆかりの地 P13-14
- ・平野権平長泰 P15-16
- ・指定文化財 P17-18
- ・大和鉄道 P19-20

Seasonal Events & Festivals
in Tawaramoto
たわらもと歳時記 p21~22

Energy of Townspeople
まちの活力 p23~36

- ・子育て・教育 P23-24
- ・健康・福祉 P25-26
- ・農業 P27-28
- ・商工業・企業立地 P29-30
- ・観光 P31
- ・防災 P32
- ・都市基盤・公共施設 P33-34
- ・生涯教育・スポーツ P35-36

The 4th Comprehensive
Development Plan
第4次総合計画 p37~38

History of the Past 60 Years as
Tawaramoto Town
合併60年史 p39~42

The 60th Anniversary of Tawaramoto
60周年
アニバーサリー p43~44

Administration & Town Council
行政・議会 p45~46
町歌、町民憲章、町章、町の花・木

Strolling Map
散策イラストマップ p47~48

ごあいさつ



田原本町長 森 章浩

昭和31年9月、新たなスタートを切った田原本町は、豊かな自然と歴史のまちとして着実なあゆみを続け、60年の歴史を積み重ねて参りました。この間、住民福祉や教育文化の向上、都市基盤の充実、産業経済の振興等において大きな躍進をみる事ができましたのは、町民の皆様をはじめ、日頃よりご支援を頂いている皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

とりわけ、近年においても田原本駅前広場の完成や唐古・鍵遺跡史跡公園の整備など「自然と歴史・文化が育む新しい生活拠点たわらもと」の実現に向け大きな前進をみる事ができました。

田原本町では、この60年の歴史を礎として、未来に向かってさらに大きく飛躍するための契機と考えています。

そこで、新しい3つの未来「子育てしやすい未来」「住み続けたい未来」「安心して暮らせる未来」を目指し、この町で生まれてよかった、この町に住んでよかった、この町で働いてよかったと思える取り組みを推進しています。

今後も引き続き、限られた財源を有効に活用し、山積する行政課題を一つひとつ丁寧に取り組み、数十年後の未来に町民の皆さんが誇れる田原本町を実現したいと考えています。

今後とも、皆様のより一層のご理解とお力添えをよろしくお願い申し上げます。



田原本町

人口 32,330人
(平成29年1月1日現在)
面積 21.09km²

奈良県

JR・近鉄で

- 京都から 約1時間
近鉄京都線「京都」駅から「橿原神宮前」行き「田原本」駅下車
- 大阪から 約1時間
近鉄奈良線「大和西大寺」駅で近鉄橿原線に乗り換え「田原本」駅下車
近鉄大阪線「大和八木」駅で近鉄橿原線に乗り換え「田原本」駅下車
JR大和路線「王寺」駅下車、近鉄「新王寺」駅で近鉄田原本線に乗り換え「西田原本」駅下車
- 東京から 約3時間30分
新幹線「京都」駅下車、近鉄京都線に乗り換え

車で

- ・西名阪自動車道「大和まほろば」スマートICから約10分
- ・京奈和自動車道「三宅」ICから約10分
- ・南阪奈道路「葛城」IC経由大和高田バイパス「新堂ランプ」から約15分

唐古・鍵遺跡

日本を代表する史跡である
「唐古・鍵遺跡」。

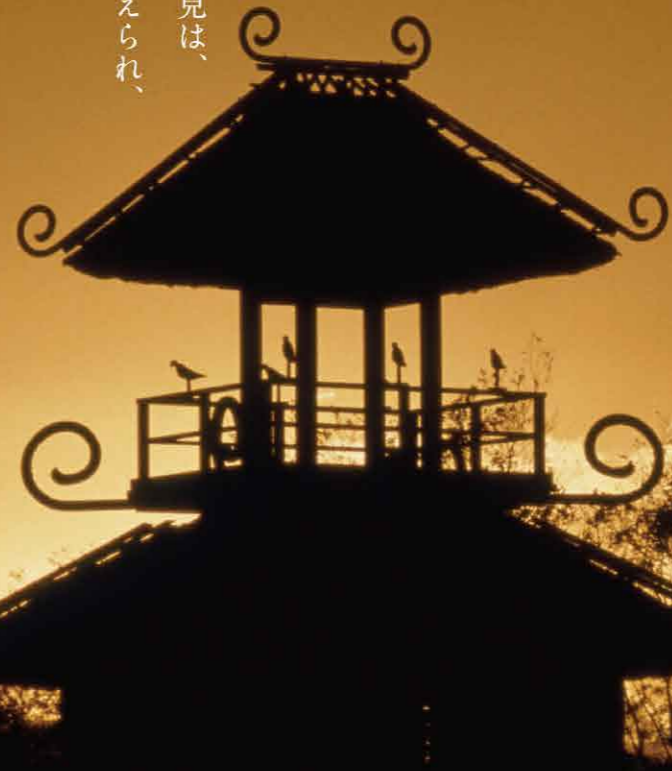
この地から、弥生時代の遺構や
遺物が数多く発見され、
弥生人の生活が

明らかにされてきた。

特に、楼閣が描かれた土器片の発見は、
考古学界に大きな驚きを持って迎えられ、
邪馬台国論争に一石を投じた。

二千年の時を超えて届いた
古代からの贈り物を大切に守り、
未来へと伝えていくために、

「唐古・鍵遺跡」のあゆみとその意義を
振り返ってみた。



「楼閣」が描かれた土器片

唐古・鍵遺跡のシンボルである「復元楼閣」の元となった絵画土器です。壺の胴部に2層以上の構造をもつ建物が描かれていました。屋根の大棟や軒先には、特徴的な渦巻き飾りが描かれています。下層の屋根の上には、横向きの逆S字形の線刻があり、屋根にとまる鳥を表現しています。渦巻きの飾りや鳥が描かれていることから、宗教的な特別な建物だったと推定されています。

この絵画土器の発見は、中国大陸との交渉、また紀元前1世紀の大和に高層建築があったということと弥生時代のイメージを大きく変えるとともに、「邪馬台国」所在地論争にも及びました。



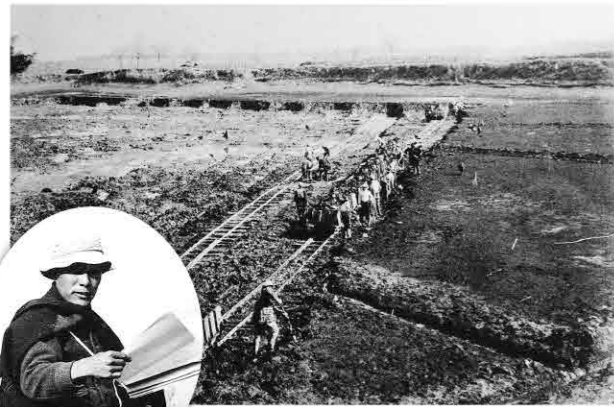
「楼閣」が描かれた土器片(町指定文化財)

遺跡調査のあゆみ

遺跡の発見と唐古池の調査

本遺跡が考古学界に報告されたのは明治34年(1901)に遡ります。その後、昭和4年(1929)に地元の名田松治郎・恒男親子が採集品の図録を自費出版し、さらに、在野の考古学者森本六爾らも小規模な発掘調査を行っています。

昭和11年(1936)、唐古池の土をとって檀原神宮への道(現在の国道24号)を整備することになり、並行して発掘調査を行うことになりました。奈良県と京都帝国大学による共同調査で、末永雅雄博士が指揮をとりました。



第1次調査



末永雅雄博士



第5次調査で出土した土器

この調査では、多数の弥生土器と木製農耕具が出土し、弥生時代が農耕社会であることを立証しました。また、調査の6年後に刊行された報告書は弥生時代研究の基礎となりました。

調査の再開

戦後しばらくは調査の空白期が続きましたが、昭和52年(1977)に北幼稚園の園舎建築に伴い、第3次調査が行われました。調査では、集落を囲む南側の環濠を鍵地区で検出したことから、遺跡名が「唐古遺跡」から「唐古・鍵遺跡」へと改められました。また、銅鐸鑄型など数多くの貴重な遺物が出土したことから、遺跡の範囲を確かめるための調査が始まりました。なお、第12次調査までは奈良県立檀原考古学研究所が、昭和57年(1982)の第13次調査以降は田原本町が引き継ぎ、調査を継続しました。



大型建物跡

明らかとなる遺跡の内容

毎年3〜4カ所で範囲確認調査や水路改修等の農業基盤整備に伴う調査などを実施し、徐々に遺跡の範囲と構造が明らかになりました。遺跡面積42万平方メートルもある日本最大級の「多重環濠集落」であることが判明しました。また、鞘入り石剣、吉備産の大壺、前期の木棺墓と大陸系の人骨、布きれなどの例のない遺物の出土は、この遺跡の重要性を認識させることになりました。

そして、平成4年(1992)に「楼閣を描いた土器片」の出土が大きく報じられたことや遺跡に「復元楼閣」を建築

したことで史跡指定の機運が高まりました。また、指定に前後して遺跡の内容確認調査が行われ、銅鐸鑄造関連の炉跡、2棟の大型建物、弥生時代最大級・最上級のヒスイ勾玉が入った褐鉄鉢容器などが発見され、近畿地方を代表する環濠集落として認識されるに至りました。

平成11年(1999)に遺跡の中心部約10ヘクタールが史跡指定を受け、公園へと整備されることになったのです。



勾玉(大・小)



翡翠(ひすい)製勾玉と鳴石容器(蓋付)(町指定文化財)

未来へ受け継ぐ唐古・鍵遺跡

こうして史跡公園としての整備が進み、市民の憩いと学習の場として活用されることになった唐古・鍵遺跡ですが、これまで発掘調査されたのは遺跡面積のうち1割にとどまります。これからも新たな発見が期待される遺跡なのです。

そして、二千年前の人々が残した貴重な文化遺産を未来へと伝えていく必要があります。

まちに近い構造だった 唐古・鍵遺跡がもつ4つの顔



都市構造の想定図

唐古・鍵遺跡から見つかったさまざまな遺物から、この遺跡が米づくりだけを行う農村でなく、さまざまな手工業も営む「まち」に近い性格をもっていたことがうかがえます。ここでは、唐古・鍵遺跡がもつ4つの顔をご紹介します。

第1の顔 農耕のムラ

唐古・鍵遺跡は、日本でも最大級の規模誇る環濠集落で、最盛期には600人以上の人々が住んでいたと推定されています。この人々が一年を通して生活できたのは、主食とするお米が確保できたからでしょう。それを示すように唐古・鍵遺跡からは多量の炭化したお米が出土しています。また、そのお米を作るためのさまざまな農具も見つかっています。水田を耕起するための木製の鋤や鋤、稲の穂を刈り取る石庖丁、お米を脱穀するための大臼や竪杵などで、これら農具類は集落内から多量に見つかっています。ただし、水田は集落の周囲1〜2キロメートル離れた場所に点在していたようですが、残念ながらその痕跡は見つかっていません。



結束された稲穂と炭化した米・籾

木で作られた農具類

第4の顔 弥生のハイテク技術

唐古・鍵ムラでは木や石、骨を加工し、さまざまな道具、生活必需品が生産されています。それら手工業のうち、特に専門性が高かったのが青銅器の製造です。ムラの東南部（北幼稚園の北辺り）に青銅器の工房がありました。火を使うことから、ムラの風下に配置されたようです。この工房では、少数の石製鑄型と多数の土製鑄型が出土しており、石製から土製への技術革新が行われたことがわかっています。弥生時代最も格式の高い祭器である銅鐸のほか、銅剣や銅釧（腕輪）、銅鍬などを鑄造していました。紀元1世紀頃の青銅器生産としては、近畿地方最大規模を誇るもので、唐古・鍵ムラの強大な力が見えてきます。



銅鐸をつくる様子

土製の銅鐸鑄型外枠

第3の顔 物流センター

唐古・鍵ムラの人たちは、北部九州から中部地方の人々と交流をしていました。それを示す遺物に、唐古・鍵ムラに運ばれてきた土器があります。西は、河内（大阪府）・摂津（兵庫県）や吉備（岡山県）、さらには筑紫（福岡県）の土器が出土しており、大和川、そして瀬戸内海を介してつながっていました。東は伊勢湾岸（三重・愛知県）・近江（滋賀県）・信濃地域や天竜川流域（長野県）の土器があり、陸路などを通じて交流がありました。土器以外にも、新潟県姫川のヒスイや京都府の水晶などの貴重な玉類、タイヤサバ、アカニシ、ウニなどの海産物も出土しています。このように唐古・鍵ムラは物資流通の拠点となり、富が蓄積されていったのででしょう。



弥生時代の市の様子

吉備器台

吉備大壺

第2の顔 環濠をめぐるムラ

環濠集落である唐古・鍵ムラは、直径400メートルの範囲が居住域で、その周囲の幅200メートル前後に多重の環濠を巡らせていました。最も内側にある「大環濠」は、幅は7メートル前後、深さ1・5〜2メートルもある大規模なものです。大環濠の総延長は1・5キロメートルに及ぶもので、相当な労働力を必要とすることから強大な力をもっていたのででしょう。

この唐古・鍵ムラの環濠の役割については3つの機能が推定されます。1つは、戦いに備えて敵からムラを守るためのもです。2つ目はムラの立地が低地であるため、集落内部の水を排水する必要があったのです。3つ目は「運河」の役割です。環濠は河川に連結していることから船を利用した物資流通に使われたと推定されます。

江戸時代までは、大阪湾から大和川を遡る川船が奈良盆地への物資流通に利用されてきました。唐古・鍵ムラの環濠も物資流通に大きな役割を果たしていたと考えられます。



環濠のイメージ

大環濠

みえてきた弥生の巨大なムラ

これまでの百数十回の調査で、唐古・鍵ムラの内容が少しずつ明らかとなってきています。直径約400メートルの集落域を囲む多重環濠や2棟の大型建物跡、そして多数の井戸や建物跡などが確認されています。
出土した膨大な土器や石器、木製品、そして全国有数の出土数を誇る絵画土器などは、弥生時代の生活を解明するのに欠かせない資料となっています。



鞘入り石剣

倒されたままの木製隅柱

木棺墓



南側を囲む環濠群



大白と藁を利用した井戸枠



鶏頭形土製品

唐古・鍵考古学ミュージアム

平成30年にリニューアルオープンするミュージアムの展示内容を紹介いたします。今までよりもさらに唐古・鍵遺跡に特化した展示内容となります。



平成30年6月
リニューアル
オープン

唐古・鍵考古学ミュージアムでは、これまでの調査で出土した膨大な資料の中から弥生の逸品を展示しています。




田原本青垣生涯学習センター内

| | | |
|---|--|--|
| <p>第3室</p>  <p>唐古・鍵遺跡周辺の遺跡、そして弥生時代の終わりから古墳時代の始まりをテーマに展示します。また、埴輪コーナーには重要文化財埴輪牛も展示しています。</p> | <p>第2室</p>  <p>唐古・鍵遺跡の膨大な出土品のうち、特に重要な品々を展示します。絵画が描かれた土器、精緻な文様で飾られた土器やヒスイの勾玉など、魅力溢れる弥生の逸品が並びます。</p> | <p>第1室</p>  <p>唐古・鍵ムラの全景をジオラマで展示するほか、弥生時代の環境や生業、他地域との交流などをテーマに展示します。弥生人の生活を垣間見ることができます。</p> |
|---|--|--|

唐古・鍵遺跡を支える ボランティアの方々

唐古・鍵考古学ミュージアム・ボランティアガイド


山本淳史さん



展示品解説のほか、「火おこし」や「弥生土器での赤米炊飯」など、子どもたちへの学習支援も担当しています。ガイド活動では、関心度が低い方にも対話を工夫することで、少しでも興味を抱いてもらえるよう努めています。「楽しかった」「勉強になった」という帰り際の一言が、遺跡の魅力をもっと伝えたいという思いの原動力になっています。

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会 (愛称「唐古・鍵支援隊」)

会長 今西和代さん



唐古・鍵遺跡は、2000年前の日本を代表する遺跡で、弥生の生活文化を示す遺物が良好に残っています。私たちは、この遺跡がいかにすごいかを知ってもらうために、学校での学習支援や、町内外への情報発信、弥生体験活動などを行っています。75名の会員それぞれの得意分野を生かしてさまざまな弥生探求に挑戦しながら、日々楽しく学んでいます。

唐古・鍵遺跡史跡公園完成予想図

多重環濠エリア

集落を囲んでいた環濠を復元。洪水や外敵から集落を守るため、また物資を運ぶ運河として、何重にも溝を掘り巡らしていました。



楼閣

遺跡で発見された土器に描かれていた建物「楼閣」を、江戸時代に築造された農業用溜池の南西隅に復元。遺跡の、また町のシンボルタワーとなっています。

遺構展示情報館

遺跡や公園全体のガイダンスの場となる施設。発掘調査で発見された大型建物跡の柱穴を型取りした模型を展示し、発掘時の状況を再現します。



弥生の建物広場

広場の南側では、発掘調査で発見された大型建物跡を柱のみで表現。また、竪穴住居も復元します。



弥生の林エリア

弥生の風景の再現のため、当時の植生に即した樹木や草花を植えています。散策や植物観察、生き物観察といった自然学習を行います。



生活体験広場

弥生の生活を体験できる広場で、休憩所やトイレを併設します。土器の野焼きや火おこし、復元土器を使った炊飯など、さまざまなイベントを行う場となります。



史跡公園 唐古・鍵遺跡

弥生の風景と生活の再現



平成30年
オープン

唐古・鍵遺跡史跡公園

所在地 / 田原本町大字唐古、鍵
公園面積 / 約102,000㎡
主な施設 / 遺構展示情報館、トイレ、休憩所、倉庫、屋外展示施設(大型建物、環濠)、復元楼閣

小学生向け歴史体験学習プログラムの一例



「史跡公園のすがた」
国史跡の指定を受けた唐古・鍵遺跡では、地下の遺構を恒久的に保存するとともに、史跡公園として活用を図るため、指定直後の平成11年度より土地の公有化を行ってまいりました。平成21年度からは本格的な工事に着手し、順次工事を進めています。

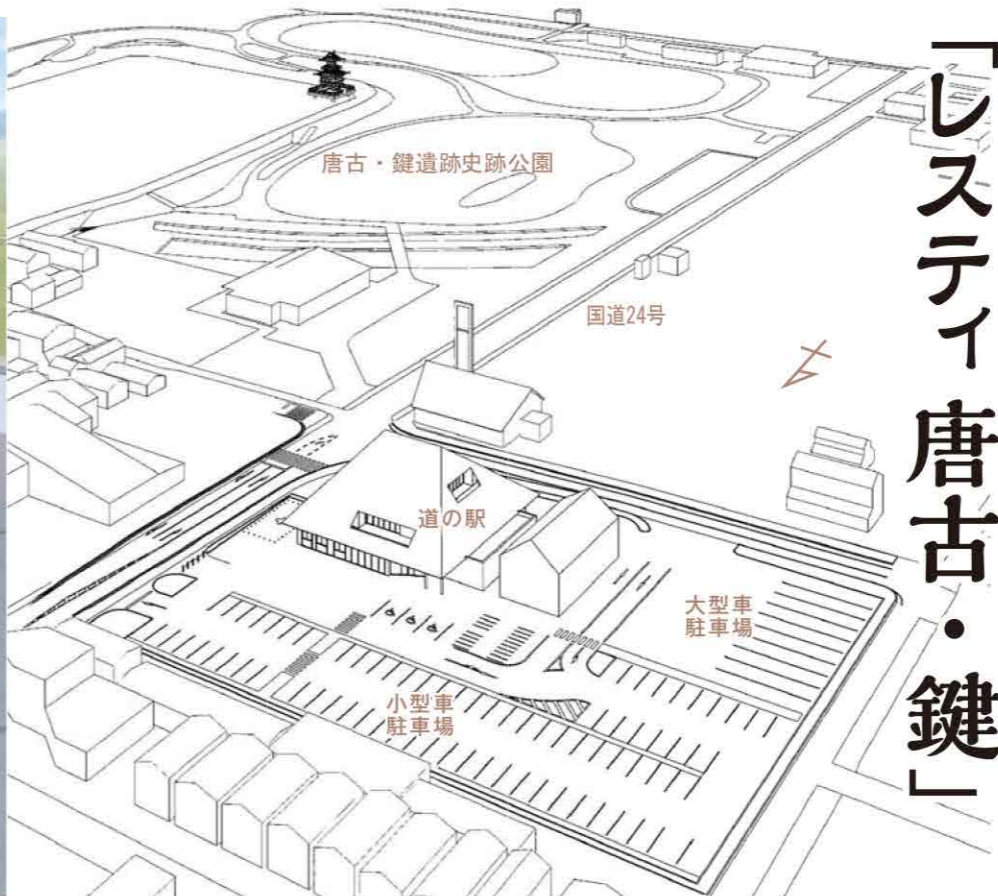
この公園では、国史跡という特色を生かし、周囲の田園風景を含めた弥生時代の「風景」の再現と、かつてこの場で行われていたであろう「生活」を追体験できる場となることを目指しています。また、道の駅や唐古・鍵考古学ミュージアムと足並みをそろえた整備を行ってまいります。開園後は三施設が事業連携を行うことで、本町における体験型教育の場、観光拠点の創出を図ります。

地域の憩いの場、観光の拠点となる

唐古・鍵遺跡史跡公園 のコンシエールジュ

道の駅

「レスティ 唐古・鍵」



史跡公園と一体になった 新しい交流施設の誕生

唐古・鍵遺跡史跡公園と隣接し、さまざまな観光サービスを提供する交流施設「道の駅」が、平成30年に誕生します。駐車場から史跡公園へ向かう主要動線には、唐古・鍵遺跡や町及び県中南和地域の観光案内と地場産品の買物・食事を提供する「此処でこそのもてなしの場」があり、史跡公園への期待感を高める施設となります。

特徴的な寄棟造りの大屋根は、国道24号を走る車からも

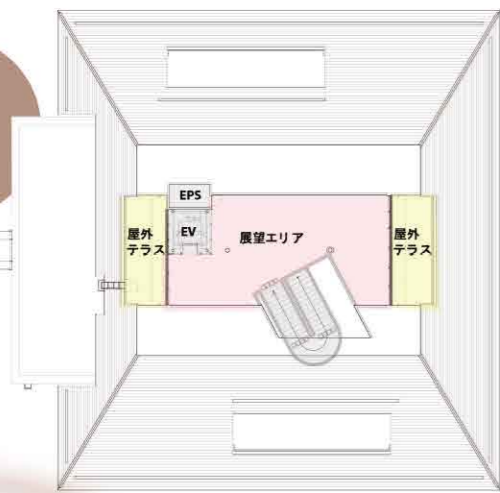
よく見えるので、新しい田原本町のランドマークとなります。この大きな寄棟屋根の「道の駅」と、史跡公園の「楼閣」という対峙する2つの建物が、このエリアのシンボルとして特徴的な建物風景を生み出します。

館内では地元の新鮮な野菜、特産品の販売や飲食店を展開。また若い女性も訪れやすい美しく、清潔でおしゃれな空間を演出します。地元客で日常的に賑わい、観光客は非日常感が楽しめる交流施設を目指します。

平成30年オープン 道の駅「レスティ 唐古・鍵」

所在地 / 田原本町大字唐古70番1
施設面積 / 1,339㎡(道路休憩施設含む)
休憩施設 / 駐車場85台、トイレ男女計38基
その他施設 / 歴史交流エリア、情報エリア、店舗(農産物、物販)、飲食店、キッズコーナー、授乳室、多目的室、展望エリア、EV充電施設

3F



田原本の豊かな景観を望む
展望エリア



大和青垣・二上山の眺望や史跡公園を一望できる展望エリア。田原本の豊かな景観を眺めることができます。

※P11,12に掲載している画像は、いずれも計画段階のイメージです。

2F



多彩な教室や食を楽しむ
体験エリア



屋外テラスと吹き抜け空間に面した飲食店では、キッズコーナーなどを設けて、全ての来訪者が気軽に休憩でき、癒しを感じることができます。また、多目的室では土器作りなど弥生時代の体験学習ができます。

1F



史跡公園への期待感を高める
交流エリア



地元の新鮮な野菜や特産品の販売店、簡易的な飲食店が並び、にぎわいを創出。観光情報を提供し、田原本町を広くPRしていきます。



記紀ゆかりの地

大和平野の低地にあった古代の田原本には、日本最古の歴史書「古事記」と正史「日本書紀」という日本の成り立ちを伝える「記紀」にゆかりのある3つの神社があります。

記紀の編纂に携わった 太安万侶を合祀 多神社

「古事記」「日本書紀」の両方の編纂に携わった太安万侶は、古代の豪族・多（おお）氏の族長でした。父は壬申の乱で活躍した多臣品治（おおのおみほむじ）といわれ、田原本町南部の多地区周辺は、この多氏の本拠地であったと考えられています。記紀の記述によると、多神社（多坐弥志理都比古神社）に祀られる神八耳命（かむやいのみこと）は多氏の先祖とされます。また、多氏は宮中雅楽を司り、一族には音楽に関係する人が多く、この地は「音楽発祥の地」ともいわれています。

多神社に祀られている
木造太安万侶坐像



また、この神社は、奈良時代には大神神社に次ぐ経済力を持ち、大和でも有数の勢力を誇っていました。大和盆地の中心にあり、東に三輪山、西に二上山を望む「太陽の道」の線上に鎮座し、春分・秋分の日に山頂からの日の出を拝する特別な位置にあります。

太安万侶墓誌
(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館提供)

奈良市東部の茶畑で発見された火葬墓から出土した「太安万侶墓誌」。太安万侶が平城京の左京四条四坊に住み、従四位下勲五等という高い地位で養老7年7月6日に没したことが記されています。



多神社 本殿



古代の工人集団 鏡作部の聖地

鏡作神社

古代の鏡作の工人集団・鏡作部たちが住み着いた鏡作郷。鏡作神社（鏡作坐天照御魂神社）は、この「鏡制作の聖地」に鎮座しています。祭神は、鏡作部の遠祖・石凝姥命（いしこりどめのみこと）、天照国照彦火明命（あまてるとくはひのみこと）と、天糠戸命（あめのぬかどののみこと）の三座。

「古事記」や「日本書紀」では、天照大神と鏡は密接な関係があると示されており、「古語拾遺」には、天照大神が鏡を自分の象徴として皇孫に賜ったと記されています。本神社に祀られる石凝姥命は天照大神の三種の神器のひとつ・八咫の鏡（やたのかがみ）を作ったとされています。神社には神宝として「三神二獣鏡」が今に伝えられています。

今は見ることができませんが、多神社と対になるよう、この地では立冬・立春に三輪山から二上山へと移動する日を拝することができたそうです。

神社で初めて位を賜った古社

村屋神社

「日本書紀」には、壬申の乱の際、大海人皇子（後の天武天皇）軍に神のお告げを与え、勝利に導いたと記されている村屋神社（村屋坐弥富都比売神社）。この功により、神社で初めて位を賜った古社といわれています。

祭神の弥富都比売命（みふつひめのみこと）は、大物主命の妃であり、大神神社の別宮といわれています。また、縁結びの神としても知られています。

町の木である「イチイガシ」などの社そうは、県の天然記念物に指定されています。



村屋神社 拝殿



村屋神社 本殿



鏡作神社 本殿



鏡作神社 鳥居



まちの発展の礎となった田原本の領主
ひらのこんべいながやす

平野権平長泰

2016年NHK大河ドラマ「真田丸」の中で真田信繁(幸村)とともに登場した平野権平長泰。彼こそが「賤ヶ岳の七本槍」と称され、その戦功により、大和国十市郡内に五千石を拝領し、田原本の領主となった人物です。田原本町はその平野氏十代の領地として発展してきました。



賤ヶ岳合戦図屏風(大阪城天守閣蔵)



平野権平長泰



長泰が実際に合戦で用いていたとされる槍の穂先(本誓寺蔵)

賤ヶ岳の七本槍

天正7年(1579)、21歳の頃から木下藤吉郎(豊臣秀吉)に仕え、各地を転戦した平野権平長泰は、天正11年(1583)、賤ヶ岳の戦いで柴田勝家の軍を討ち、秀吉の天下取りに大きく貢献しました。このときの功績によって、福島正則、加藤清正らとともに、「賤ヶ岳の七本槍」と称され、三千石の領地が与えられました。

その後、賤ヶ岳の旧功が見直され、文禄4年(1595)に田原本など五千石の領地が与えられました。時に長泰37歳のことでした。この時、豊臣秀吉が長泰に宛てた感状は、町の文化財に指定されています。

平野家の陣屋町

長泰は京都伏見に屋敷を構え、田原本の地は、教行寺に寺内町を築かせて統治。寛永5年(1628)に70歳の天寿を全うしました。

二代目長勝は田原本に入り、寛永12年(1635)、現在の町役場付近に陣屋(役所)の築造を開始。教行寺との支配権を巡る争いの末、長勝は教行寺を退去させ、その跡地に円城寺(現・浄照寺)と本誓寺を誘致しました。

寺内町は、陣屋を中心とした陣屋町として引き継がれ、寺川の水運と中街道沿いという好立地から物流拠点として発展。商業が大いに栄え、大きな問屋が軒を連ねたことから「大和の大坂」ともいわれていました。



歴史ある町並み



本誓寺 本誓寺は平野氏の菩提所となり、境内には二代長勝、九代長発の霊廟が建てられています。



浄照寺本堂 二代目長勝の創建とされ、その表門は伏見城から移したものと伝えられています。

その後の平野家

平野家は文禄4年(1595)から実に約280年にわたり、国替えにもあわず十代にわたって田原本を統治しました。福島正則や加藤清正らが大名になりながらも大名家として続かなかつたのに対し、平野家は旗本ながら明治時代まで安泰だったことは特筆すべきことです。石高は五千石でしたが、江戸時代を通じて旗本交代寄合として参勤交代も務め、大名並みの待遇でした。

そして、明治元年(1868)には一万一石八斗を与えられ待望の大名となり、田原本藩となりました。明治4年(1871)に廃藩置県で奈良県に編入されましたが、藩主はその後、男爵に叙爵。その後貴族院議員となり、昭和になって華族制度が廃止されるまで続きました。



長泰のものといわれる塗膳(本誓寺蔵)



津島神社 江戸時代に領主平野家の尊崇を集めました。中和最大の夏祭り「祇園祭」が行われます。



長頭寺 領主平野家の武運長久の祈願寺として京都から招かれたと伝えられています。



平野権平宛豊臣秀吉朱印状(福岡洋介氏所蔵/町指定文化財)



平野権平宛羽柴秀吉判物(福岡洋介氏所蔵/町指定文化財)

仏画



楽田寺の善女龍王図 (県指定文化財)

名称: 絹本着色善女龍王図
時代: 室町時代

寺号の雨宝龍王院が示すように雨乞い祈禱の本尊として用いられた善女龍王図。中央に龍王、左上方に雷神と雨神、右上方に十一面観音像、右下に弘法大師坐像を配し、漢画風に表しており、明快さと力強さがあります。

安楽寺の融通念仏縁起絵 (国指定文化財)

名称: 絹本着色融通念仏縁起絵
時代: 南北朝時代(14世紀後半)

融通念仏宗の開祖良忍上人の行状とその及ぼした念仏功德の靈験譚をあわせ絵画化した縁起絵。一般的な融通念仏縁起絵は絵巻物であるのに対し、6場面が一幅に仕立てられており、他に例をみない掛幅形式の縁起絵です。



千萬院の十一面観音立像 (町指定文化財)

名称: 木造十一面観音立像
時代: 室町時代(天文10年・1541年)

宿院町(奈良市)に工房を構え、宿院仏師と呼ばれた俗人仏師集団の第一世代である源四郎が棟梁となり造立された十一面観音立像。生硬な顔つきは源四郎の個性を表しており、頭部は前後に、体部は左右に材を寄せ、正中線のくるいもなく姿態をまとめています。その技量は、当代の室町彫刻の中でも高い評価が与えられます。



仏像

千萬院の 不動明王立像 (国指定文化財)

名称: 木造不動明王立像
時代: 平安時代
(12世紀初頭)

本像は、不動明王が本来もつ若々しさを彫り表しており、体形が引き締まって整い、衣部には截金文様が散らされるなど、王朝風の優美さをとめています。現在は、千萬院の客仏的な扱いになっていますが、隆盛を誇った「法貴寺」の一子院にあったと考えられています。

安養寺の快慶仏(国指定文化財)

名称: 木造阿彌陀如来立像
時代: 鎌倉時代(12世紀末~13世紀初頭)

足ほどの墨書「巧匠阿彌陀佛」から壮年期の快慶の作品とされている木造阿彌陀如来立像。眼の見開きが強くなく、頬に張りがあるてふくよかな容貌が特徴です。また、流麗な衣文線や像の仕上げに金色をつや消しする粉溜技法を用いているなど、快慶仏の特色がみられます。この仏像は、安養寺の東向かいにあった廃寺「浄国寺」の伝来とされています。



指定文化財

いねが いっぱい

今に伝わる貴重な文化財をいくつかご紹介します。



古文書

小林家文書(町指定文化財)

名称: 小林家文書 時代: 桃山時代~昭和

田原本町の小林家は、江戸時代から明治前期にかけて庄屋などを務めた家で、同家には当該期の田原本の歴史を伝える1132点もの貴重な古文書が伝存しています。最も古い文書は、文禄4年(1595)の「大和国十市郡田原本御検地帳」の写しで、太閤検地時の集落の様子が記されています。これらの多数の文書や絵図により、田原本の形成・発展過程を詳細に知ることができます。



補巖寺の納帳(町指定文化財)

名称: 寶陀山補巖寺納帳 時代: 室町時代
名称: 補巖寺開山支派 時代: 江戸時代

補巖寺に残る納帳は、寺の土地台帳に当たるもので、ほぼ同じ内容のものが4冊残存しています。約45町歩に及ぶ田畠は、十市郡を中心に城上・城下郡に広がり、作主の名前のほかに村落や小字の名称が記載されています。また、世阿弥やその妻の法号である「至翁禅門(しおうぜんもん)」、「寿椿尼(じゅちんに)」の記載があり、世阿弥夫婦が補巖寺で永く菩提を弔われたことが明らかになりました。「補巖寺開山支派」には、補巖寺の歴代住職の系譜が記載されています。



本光明寺の 十一面観音立像 (国指定文化財)

名称: 木造十一面観音立像
時代: 平安時代(11世紀後半)

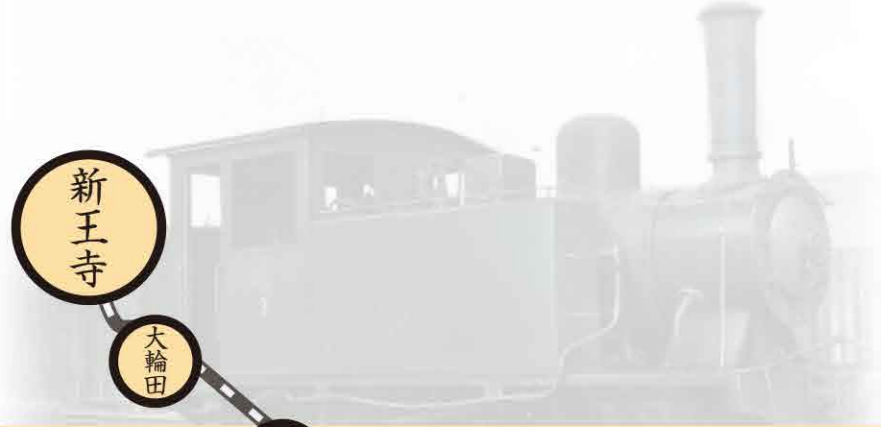
頭と体部の幹部を桂の一材から彫りだし、背中側をくり貫き、背板をあてた構造になっている十一面観音立像。板光背と簡素古様な蓮華台座とも、当初のものが揃っている大変貴重な例です。本光明寺は天理市森本町にあった同寺を、明治7年に廃仏毀釈で廃寺となった勝楽寺跡地に迎え入れたものです。



宮古の薬師如来坐像 (国指定文化財)

名称: 木造薬師如来坐像
時代: 平安時代(9世紀末)

宮古の薬師堂に伝わる等身大の薬師如来坐像。檜の一材でほぼ全容を彫りだした重厚感のあるもので、大きめの頭部はやや面長で頬の張った下ぶくれの特徴がみられます。この仏像の伝来は不明ですが、薬師堂周辺には寺垣内、寺東、大門などの地名が残ることから、寺院が存在したと考えられ、中世には「常楽寺」という大寺院の一堂に祀られていたものかもしれません。



大和鉄道 寺川橋梁を走る列車

大和鉄道 開業式当日の田原本駅(大正7年頃)

大和鉄道 社章

まちの想いを乗せて

走り続ける

1918.4.25 (大正7年) 田原本発 一世紀

現近鉄田原本線

大和鉄道

田原本鉄道 株式会社 創立

近世に大和川最上流の河港・今里浜を利用した物資の集散地として栄えた田原本は、明治になって衰退を始めます。水運に代わる新しい交通手段となった鉄道の建設に遅れてしまったからでした。この状況に危機感を抱いた地元有志は「中和鉄道株式会社」の名前で鉄道敷設を申請しましたが、却下されます。その後、地方鉄道の敷設を推奨するため制定された軽便鉄道法による「田原本鉄道株式会社」を發起。構想から15年を経て、ようやく敷設申請が認められました。

大和鉄道と改称 困難を極めた建設工事

大正3年5月から用地買収、建設工事を順調に進め、大正5年末には9割が完成。大正6年「大和鉄道株式会社」と社名を変更しました。開通を目前に控えたころ、第次世界大戦による鉄材の不足と価格暴騰で、レールの入手が困難になり、深刻な資金不足に陥ります。さらに台風による洪水で橋脚が流されるなど、工事は何度も暗礁に乗り上げましたが、多くの人の尽力で大正7年に開通。開通式が行われた4月25日から2日間は、終日火花が打ち上げられ、町内各所では祇園囃子に合わせ人々が踊り歩するなど、町はじまって以来の大賑わいでした。

桜井延長線の開業

構想以来、桜井まで延長することは人々の悲願でした。しかし、国鉄桜井線との関係もあり、申請は却下され続けました。三輪への迂回をやめたコーン変更により大正8年ようやく許可されました。その後、奈良盆地を斜めに横断する17.6キロメートル(新王寺〜桜井)の鉄道が完成したのです。生活の足となった大和鉄道は、沿線の人々から親しみを込めて「ヤマテツ」と呼ばれるようになりました。

大阪電気軌道の傘下に入る

桜井までの延長線が完成した大和鉄道は、県外へも進出すべく、桜井〜名張(大正11年)、さらに伊勢までの鉄道免許(昭和2年)を得ましたが、それを実行するだけの経営力はありませんでした。大正14年、県下一円に路線を拡大していた大阪電気軌道(近畿日本鉄道の前身)が、大和鉄道の株式90%を取得。同社の傘下に入り、取得した伊勢方面への免許も同社子会社に譲り渡すことになりました。

今も走り続けて 100周年

太平洋戦争が始まると、鉄道路線の施設を他に転用するため、大和鉄道の田原本〜桜井間が廃止路線となりました。終戦後は機関車の老朽化と石炭不足により経営が逼迫。近鉄の経営的技術的援助を受け、昭和23年に電化が完成しました。その後、昭和36年に信貴生駒電鉄と合併。昭和39年に同電鉄が近鉄と合併したことで「ヤマテツ」の名は消えることになりました。鉄道そのものは降も近鉄田原本線として運行。まちの想いを乗せて走り続けて、平成30年に開通から100年を迎えます。

旧大和鉄道現在までのあゆみ

| | |
|-------------|---|
| 明治43年12月23日 | 田原本鉄道(株)発起(事務所は町役場内) |
| 明治45年 7月14日 | 田原本鉄道(株)創立(総会会場は浄照寺) |
| 大正 6年 1月23日 | 大和鉄道(株)と社名を変更 |
| 大正 7年 4月26日 | 新王寺・田原本間(10.1km)開業 (軌間 国有鉄道と同じ1067mm 蒸気機関車牽引) |
| 大正11年 9月 3日 | 田原本・味間間(2.6km)開業 |
| 大正12年 5月 2日 | 味間・桜井町間(4.5km)開業 |
| 昭和 3年 5月 1日 | 桜井町・桜井間(0.4km)開業 |
| 7月15日 | 気動車購入 蒸気機関車と併用使用 |
| 昭和19年 1月11日 | 田原本・桜井間(7.5km)営業休止 (営業廃止は昭和33年12月27日) |
| 昭和23年 6月15日 | 新王寺・田原本間軌間拡張電化工事完成 (軌間 近鉄標準線と同じ1435mm 近鉄から車両を借り受け電車運転開始) |
| 昭和36年10月 1日 | 信貴生駒鉄道(株)と合併 田原本線と呼称 |
| 昭和39年10月 1日 | 信貴生駒鉄道(株)が近畿日本鉄道(株)と合併(田原本駅を西田原本駅と改称) |
| 昭和58年11月30日 | 佐味田川駅開業 |



近鉄西田原本駅ホーム(現在)



大和鉄道 電化工事中の田原本駅(昭和23年)



近鉄西田原本駅(現在)



田原本駅(大正12年頃)



2月21日に近い日曜日 鏡作神社の御田植祭



6月第1日曜日 今里の蛇巻き



6月30日 夏越し大祓い



7月中旬の土・日曜日 祇園祭

四季折々の たわらもと 歳時記 祭りイベント

1月第2日曜日 **初戎**

津島神社
津島神社の境内にある戎神社では、商売繁盛・家内安全などを祈る初戎の祭りがあり、福笹が売られる。

4月第3日曜日 **おおれんぞ** 多神社

五穀豊穡を神に祈る春祭り、午前中に神事、午後には芸能奉納やおもちゃまきがあり、多くの参拝者でにぎわう。

4月第4日曜日 **やどかり市** 田原本駅周辺

駅周辺の活性化を目的とし、4月と11月の年2回開催されている。

6月第1日曜日 **蛇巻き** 今里の蛇巻き 杵築神社

旧暦の5月5日に行われる端午の節句にちなんだ行事。また、田植え時に雨が降るようにという祈りを含んでいる。

今里の蛇巻き 杵築神社
麦わらを束ねて作った全長18mにもなる蛇を抱え、今里の各戸を練り歩く。

鍵の蛇巻き 八坂神社(鍵)

稲わらで作った300kg近い頭の蛇を担いで鍵大字内で祝いのあった家などを訪ねる。

6月30日 **夏越し大祓い** 村屋神社

この神事は、半年間の無事を感謝するとともに、残りの半年間の息災を祈願して行われる。



10月16日に近い日曜日 **十六市**

イベント広場、浄照寺周辺
昔、毎月十六日に浄照寺前で市が開かれていたことに由来し、町の地域活性化の1つとしてフリーマーケットや模擬店、イベントなどの催しが行われている。

11月3日 **やどかり市** 田原本駅周辺

駅周辺の各商店や、県内の大学・高校と協力し、開催されている。50を超える手作り作家等のテントブースも並べられる。

1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

2月11日 **村屋神社の御田祭** 村屋神社

牛使いの森講が牛男に扮した牛を使って、田植えの準備を行い、この時、牛がよく暴れた年が豊年になると伝えられている。

2月第4日曜日 **華鎮祭** 八坂神社(阪手北)

弓矢で悪霊をうちすくめ、村人の息災を祈り、また、五穀豊穡を願う正月の行事。

2月21日に近い日曜日 **鏡作神社の御田植祭** 鏡作神社

御田植舞・豊年舞・牛使いの神事が行われ、牛が大暴れすればするほどその年は慈雨に恵まれるという。

2月22日に近い日曜日 **池神社の御田祭** 池神社

地元の人たちにより稲モチ撒き、牛による田おこし、早苗植えが行われる。早苗を最後に投げて豊作を祈願する。

5月5日 **綱かけ** 矢部地内

農作物が豊作であるように、また村に邪霊が入らないようにと祈願する祭りで、江戸時代から続いているといわれている。

7月中旬の土・日曜日 **祇園祭** 津島神社

五穀豊穡、悪疫退散を祈り、毎年7月に行われる津島神社の例祭で、通称「祇園さん」と呼ばれ親しまれている。

10月9日・10日 **秋祭り** 村屋神社

巫女が平神楽、扇の舞、剣の舞、矛の舞など、代々伝えてきた神楽(代々神楽)を舞い、神様に奉納する。

10月中旬の土・日曜日 **秋祭り** 鏡作神社

宵宮に行われる「あかりの祭」では、境内がろうそくの明かりに包まれ、幻想的な雰囲気になる。

10月19日に近い土・日曜日 **秋祭り** 池神社

宵宮では華やかに飾りつけられた5台の山車により「宮入り」が執り行われる。山車は拝殿の前に並べられ、神楽や祭り囃子などが奉じられる。

子どもたちの笑顔が

あふれるまちづくり



若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境へ

少子高齢化が進むなか、田原本町では町内に住む若い世代が、自らの希望で子どもを産み、育てることができるよう社会的実現に向け、各種支援の充実を進めています。
また、多様化する子育てニーズに対応するため、きめ細かい子育て支援に取り組んでいます。

子育てを楽しめるための実現に向けて



マタニティ教室(パパ・ママ教室)



こんにちは赤ちゃん訪問

地域みんなで、子どもたちの健やかな成長を見守る

幼児期の保育・教育は生涯にわたる人格形成の基礎です。田原本町では、確かな教育とさまざまな学習の取り組みを通じて、次代を担う子どもたちに対して質の高い教育の提供と心身の育成を促す環境づくりを進めています。

また、地域でのつながりが希薄化するなかで、子育てを地域全体で支援していくため、学校・家庭・地域が連携し、地域における教育力を高め、地域ぐるみで子育てを行うための取り組みを推進します。

さらに、「ふれあいセンター」や「図書館」では、地域や世代間の交流を促進する催しを積極的に企画するとともに、ボランティアの育成にも注力しています。地域や世代間の交流を深めることで、子どもの健やかな成長を見守ることができ体制を充実させています。



職場体験 南幼稚園(田原本中学校)



給食(田原本小学校)



図書館ボランティア 読み聞かせ



児童館(ふれあいセンター)

未来への思いを育む さまざまな体験



外国人講師による語学指導(北中学校)

さまざまな体験を通して 子どもたちの未来を応援

小学校への出前講座や地域の歴史文化に関する副読本を活用した学習など、田原本町ならではの特色を生かしたふるさと教育で地域への愛着を醸成しています。また、一人ひとりの能力と個性を伸ばせる環境を整備し、生きる力を育むさまざまな取り組みを実施しています。



ふるさと教育 火おこし・炊飯(南小学校)

interview インタビュー



北幼稚園 PTA代表 中村朋子さん

数年前に田原本へ戻り、伝統行事「蛇巻き」や秋祭りに家族で参加させてもらい、地域の方々と世代を超えたつながりができました。普段から子どもたちにも声を掛けてくれるなど、地域に育てられているようで、ありがたく思っています。子どもたちには、育ったまちの自慢ができ、地元を大切に考える大人に育ってほしいと思っています。



池神社の秋祭りに参加(北幼稚園)



自主グループ「かがやき」

高齢化や核家族化により、地域力の重要性が再認識されているなか、田原本町では、住みよい地域づくりを進めるため、家庭・地域・行政の連携や、保健・医療・福祉などの関係機関のネットワークづくりを推進。誰もがいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らせるために、地域とともに支え合い、助け合えるような地域福祉づくりに取り組んでいます。



歯磨き指導のペーパーサート

認知症サポーター養成講座(磯城野高校)

健康でいたい、働きたい、前向きな意欲をかたがに

高齢期の生活を健やかで充実したものにするため、生涯を通して健康づくりへの取り組みを実施するとともに、一人ひとりが仲間との交流を通して学習し、健康の保持・増進が図れるよう、特定健診やさまざまな啓発活動などを実施しています。

また、働く意欲のある高齢者に就労の機会を提供するための磯城郡シルバー人材センターをはじめ、高齢者の豊かな経験・知識・技術を活かした社会活動が行えるよう、関係機関との連携を図っています。



特定健診・がん検診受診の様子



食生活改善推進員協議会(親子食育教室)

健康づくり推進員協議会(いきいき体操)

CKD(慢性腎臓病)啓発講演会



シルバー人材センター

いきいきと元気に暮らすためのサポート

地域住民や団体などとの連携・協力のもと、田原本町では子どもから高齢者まで幅広い層の世代間交流を促進しています。また、高齢者が仲間づくりや交流を通して、充実した生きがいづくりが図れるよう、老人クラブ活動や、憩いの場としてのふれあいサロンの活性化、ボランティア活動の促進などに取り組んでいます。



介護予防塾

interview
インタビュー



活き粋サロン ふれあいコスモス 代表 市口雅章さん

高齢者を中心に幼壮老の制限なく、「ともに生き活きと粋に流れる1日」をテーマに、毎週水曜日に週替わりでさまざまな催しを開催しています。体操や音楽鑑賞、ゲームをはじめ、小学生との世代間交流もあり、参加者が本当に喜んでくれている実感があります。発表者も、運営スタッフもボランティアですが、こういった活動が増え、毎日どこかにこのような居場所があるまちなればと思っています。



豊の上運動会

大和の
伝統野菜

味間いも



本町の特産品としてアピールできる作物の一つとして推進を行っていた「味間いも」が、大和の伝統野菜として県に認定されました。
より多くの方に「味間いも」のおいしさを知っていただくため、町の「農業祭」や「あつたかもんグランプリ」などさまざまなイベントに参加し、PR活動を通してブランド力強化に努めています。



農業祭でのPR活動

なす

吉岡 政伸さん



千両ナスを栽培しています。収穫は家族と夜明けとともに始め、多い日で2,000本出荷しています。

ほうれん草

松岡 茂光さん
秀樹さん



土づくりとハウス栽培の水と温度の管理が重要です。後継者となる息子に現在教育中です。

花き

安田 勉さん



切り花と球根を栽培しています。ハウス栽培なので温度と害虫の管理に気を使っています。

トマト

井上 雅光さん



4,500本のトマトのハウス栽培は、やはり日頃の手入れが大切です。収穫は夫婦2人で行い、1日1,000個以上出荷しています。



田原本ブランド

豊かな大地で育む

美味しくて、売れる
農業を目指して

interview インタビュー



取田 宙也さん 佳奈さん

奈良のブランドである「あすかルビー」を夫婦で栽培しています。イチゴ狩りや「やどかり市」で、イチゴのパウンドケーキを販売したときに、お客さんから直接「おいしい」という生の声を聞くことが、私たちの原動力になっています。農業を取り巻く環境はやさしくはありませんが、地元で愛される農家になり、農業で「まちの顔」になれるよう日々頑張っています。

次世代につながる生産基盤を整備

大和平野のほぼ中央に位置し、周辺を山に囲まれ、夏は暑く、冬は寒い、典型的な盆地気候である田原本町。古くから米作りが盛んで、最近では、野菜など付加価値の高い農産物を栽培する農家が増えてきました。町では農業を田原本の豊かな田園都市を形づくってきた重要な産業として位置づけ、次世代につながる営農ができるよう、担い手となる農業者の育成・強化を図るとともに、新規就農者の支援を積極的に行っています。経営を支える生産基盤の整備を進めるとともに、田原本ブランドの育成とPRを進めます。

また、農業祭の開催、地元産野菜を使った学校給食、農業体験などを通じて地産地消の取り組みも行っています。

多様な担い手の育成

農事組合法人 多集落営農組合

集落営農の組織化により、施設・機械の共同利用や農地の計画的利用などに取り組み、組織を法人化することにより経営の合理化を行っています。

これにより、担い手不足の解消や、生産コストの低減、相互補助の復活など、次世代につながる営農を展開しています。



事務所・格納庫・機械を組織で所有



企業誘致地区

新たな工場適地の創出

地域の活性化へ、積極的な企業誘致を推進

地方創生の観点からも重要である地域の活性化や、若い世代の安定雇用を確保するため、田原本町では田原本インターチェンジ周辺新都市機能地区等への積極的な企業誘致を推進しています。また、県と連携して、現在ある準工業地域を中心に新たな工場適地の創出に向け積極的に検討していきます。

- 進出メリット 1**
快適・便利なアクセス
 大阪や京都と直結できる交通環境にあり、物流・通勤に便利な立地です。西名阪自動車道、南阪奈道路に加え、京奈和自動車道の整備が進み、アクセスはさらに良くなります。
- 進出メリット 2**
独自の企業立地優遇制度
 田原本町では、躍進を目指しておられる企業の皆様方が工場立地を検討していただけるような優遇税制の制度や特色のあるさまざまな独自の奨励金制度をいち早く取り入れていきます。
- 進出メリット 3**
災害の少ない優れた立地
 ほぼ平坦な土地であるため、敷地を有効に利用できます。また現在示されている断層帯は走っており、土砂災害が発生する可能性が低く、水害についても積極的な対策を進めており、安全安心なまちであるといえます。
- 進出メリット 4**
安定的な雇用の確保
 田原本町を中心とする近隣市町の人口は32万人を超え、多様な人材の確保が可能な都市圏です。また、奈良県は専業主婦の割合が全国1位であり、町の子育て支援施策の推進により女性従業員の確保も可能であると考えます。



市街地の活性化などを積極的に展開



賑わいと活力あふれるまちづくり

地域経済活性化のため企業の成長を支援

経済の停滞が続くなか、田原本町では、地元企業に対する経営の安定化・設備投資の充実を促進するため、融資制度を設けています。また、企業や商工会と連携しながら、地元企業の活性化や田原本から成長を目指す企業の支援を続けていきます。

中心市街地の賑わいを取り戻す「やどかり市」

全国的に中心市街地の空洞化や商店街の衰退が進むなか、田原本町では田原本駅周辺を基軸とした「歩いて暮らせるまちづくり」を推進しています。田原本町地域公共交通活性化協議会では、駅周辺の商店や県内の大学・高校と協力し、駅周辺の活性化を目的とした「やどかり市」を開催するなど、賑わいの創出に協力していきます。



実際に立地された方の声

大阪デリカフーズ(株)

[事業内容] 食品加工業
[立地を決定した理由]
 ・新興産業や大手企業の進出がこれからであるため、雇用の確保が比較的しやすい状況であった。
 ・京奈和自動車道やバイパスの開通に伴い、奈良市街地や大阪、京都方面へのアクセスがよい。
 ・自治体の補助金制度で、総投資額の約1割を補助金で賄うことが可能であった。



(株)吉川ジオテック

[事業内容] コンクリート製品製造業
[立地を決定した理由]
 ・奨励金制度などが用意されていた。
 ・奈良盆地の中心に位置し、交通の利便性が高い。
 ・旧工場との立地関係が良好であった。
 ・投資金額が想定内であった。
 ・創業の地であり、地元意識が高かった。



interview インタビュー

織田 豊店

4代目 織田 理さん

創業120年の畳屋を守り、畳の良さを知ってもらうため、「敷く畳から、持ったたみ」をコンセプトにした「畳小物」を数年前から開発しています。その一つ、ラウンド財布が2016年度のグッドデザイン賞を受賞しました。ロゴマークには楼閣をデザインし、田原本を日本中へ、世界へと発信し、地元密着の畳屋として地元へ恩返しできればと思っています。

interview インタビュー

花太刀食品工業(株)

代表取締役 長塚 洋二郎さん

1948年にジャム加工会社として創業し、現在はコンビニスイーツのクリームや、独自加工技術による野菜・果物ペーストなど、食品原材料の製造・開発を行っています。田原本に移って40年。地域には食品加工会社が少ないので、小学校の工場見学の受け入れや、奈良県産野菜の加工食品開発など、少しでも地元へ貢献できればとの思いで取り組んでいます。



総合防災訓練

地域社会の連帯感を醸成



安全で快適な暮らしを支えるまちづくり

支えるまちづくり

来るべき災害に備え 地域防災体制を強化

近年、全国各地で地震や台風、ゲリラ豪雨などの自然災害が多大な被害をもたらしているなか、災害に強いまちづくりを進めるためには、日ごろから住民一人ひとりが自主防災の意識を持ち、災害発生時に的確に対処できる知識を身につけ、地域の人々が協力して防災活動を行っていく自主防災組織の育成が重要です。田原本町では、自主防災組織に対する補助金制度を整え、組織の結成・活動を促進しながら、住民、自主防災組織、行政が互いに協力して、災害に強いまちづくりを進めています。



防災訓練(避難所運営ゲーム HUG)



救急救命講習



出初式



防災無線放送



登下校の見守り活動



高齢者交通安全教室

田原本町では、消防・救急体制の充実はもちろん、防犯パトロールによる地域防犯体制の充実、交通安全教育の強化などを実施。子どもから高齢者まで、安心して快適に暮らせる安全なまちづくりを進めています。

安全・安心な暮らしを支えるまちづくり



浄照寺前



町の魅力を多くの人に伝えたい



かるた大会



広域連携
県立美術館でのPR展示

歴史ロマンあふれる町を楽しみながら知る



観光ビデオ撮影

町内外へ 効果的に情報発信

田原本町には、日本の弥生時代を代表する集落遺跡の唐古・鍵遺跡だけでなく、歴史深い寺社など観光資源がたくさんあります。地元の人にはもちろん、よりたくさんの人に知っていただき、興味を持っていただければ、PR活動を行っているところで。これからは、観光アプリや観光プロモーションビデオといった観光ツールも活用し、誘客を図っていきます。また、町単独の活動だけでなく、奈良県や他市町村と連携した活動も行っています。

観光ステーション「磯城の里」

観光ステーション「磯城の里」は、田原本町を訪れた観光客の方々が観光スポットなどの情報を収集したり、休憩所として利用することができます。

観光協会では、このステーションで観光客をお迎えし、観光案内やレンタサイクルを行っています。また、観光ボランティアガイドによる案内（要事前申込）も実施しています。



「ももたん」



生活基盤の充実した

まちづくり

自然や歴史と調和した暮らしやすいまち

充実した都市基盤整備を計画的に推進

田原本町では、自然や歴史との調和はもとより、田原本町駅周辺市街地を核として、人々が住まい、にぎわい、暮らしよいまちづくりを計画・推進しています。町民の利便性向上を図るための道路整備

や、快適な生活環境を保つための上下水道の整備、環境保全を推進するごみ処理施設の建設など、日々の暮らしを楽しめるまちの実現に向け、さまざまな課題に取り組んでいます。



主要幹線道路(宮古25号線)



田原本駅前ロータリー

町民の足として大活躍！あいのりタクシー

「ももたろう号」

田原本町では、利用者の予約を受けて乗合で町内を運行するデマンド型乗合タクシー「愛称「あいのりタクシー」ももたろう号」の運行を行っています。



町内各所に多彩な公園を整備

田原本町では、唐古・鍵遺跡史跡公園の整備と同時に、各地域の公園整備にも平成8年から取り組みはじめ、「田原本町イベント広場」や大和川の河川敷を利用した「しきのみちはせがわ展望公園」、旧清掃工場に隣接した「やすらぎ公園」が完成し、それぞれ地

域の憩いの場として親しまれています。これにより、町民の憩いの場となる公園は、一定の整備が進み緑地面積も増加しました。今後はスポーツやレクリエーション施設、子どもの身近な遊び場を備えた公園整備を進めていきます。



しきのみちはせがわ展望公園 ながめの丘



しきのみちはせがわ展望公園 すいせんの丘



やすらぎ公園

御所市・五條市と共同で 新ごみ処理施設を建設

田原本町と御所市・五條市は、共同で循環型社会形成と周辺環境や地球環境の保全に配慮した広域ごみ処理施設を建設しました。

施設の統合・集約化により、環境への負荷を抑制できることはもちろん、広域化によって国の循環型社会形成推進交付金の対象となったことで、財政面での負担も軽減されています。



新ごみ処理施設「やまとクリーンパーク」



清掃センター(中継施設)

田原本町 主な公共施設



配水場



浄化センター



やすらぎ体育館



中央体育館



ふれあいセンター



老人福祉センター



町民ホール



浄水場



健康運動場



中央体育館庭球場



保健センター



図書館



青垣生涯学習センター



田原本町民マラソン大会

スポーツを通じて人と人の交流を促進



ジュニアサッカー

子どもから高齢者まで年齢に応じたスポーツの推進。田原本町では、子どもから高齢者まで、年齢に応じたスポーツの推進を図り、より多くの人が参加できる教室の開催や環境を整備。いつでもどこでも、だれもがスポーツを楽しめるまちづくりを進めています。



秋季総合競技大会(テニスの部)

多くの団体支援やイベントを開催。スポーツ少年団をはじめとしたスポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの支援はもとより、ニュースポーツ、レクリエーションスポーツに対応したスポーツ指導者の養成、イベントの開催などで、多くの人々が参加できる生涯スポーツを推進しています。

interview インタビュー



田原本東レッドファイターズキャプテン(ピッチャー) 総村皇葵さん

小学校3年生のときに同じ学校の上級生から誘われて入団しました。5つの小学校から集まった1年生から6年生と一緒に活動し、休み時間も一緒に遊んだりしています。中学校に入っても、今のチームの何人かとまた一緒に野球ができるので楽しみです。



平野スポーツ少年団キャプテン 松井愛雪さん

先にバレーボールを始めた姉を見て、私もやりたいと思い小学校2年生のときに友達と入団しました。セッターをやっているのですが、きれいにあげられたトスをアタッカーが決めてくれたときや、チーム一丸となって勝ったときが一番うれしくて楽しいです。

だれもがスポーツを

楽しめるまちへ

子どもから高齢者まで年齢に応じたスポーツの推進



リズム体操



歩こう会

多くの団体支援やイベントを開催

スポーツ少年団をはじめとしたスポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの支援はもとより、ニュースポーツ、レクリエーションスポーツに対応したスポーツ指導者の養成、イベントの開催などで、多くの人々が参加できる生涯スポーツを推進しています。



フラワーアレンジメント教室



子ども科学教室



曾爾高原宿泊体験学習

まちを活性化させコミュニティを育む

まちづくり

人と人のふれあいが新たな活力を創造

自由で創造的な文化・芸術活動は、人々の心を豊かにしてくれます。田原本町では、「田原本青垣生涯学習センター」を拠点に、子どもから高齢者まで気軽に学べる各種講座や教室を開講。まちを活性化させ、コミュニティを育む文化・芸術の振興を図るとともに、世代間、地域間の交流を深めることで、新たな活力を創出しています。

人々の元気が町の元気をつくる



料理教室

「弥生の里ホール」を利用した、音楽や舞踏などの芸術文化活動も活発に行われています。本町では、文化活動のさらなる活性化を図るため、文化団体や活動グループとの密接な連携を図り、住民による主体的な活動の拡大を促進。活動成果を発表する機会の充実などにより、住民の創作意欲をさらに高めることで、まちの元気を創出しています。

interview インタビュー



田原本町文化団体連絡協議会会長 藤本義則さん

町を挙げて各文化団体が連携しており、強い横のつながりのなかで、毎年11月に3日間の文化祭を開催しています。大きな発表の場を目標に、みんながやりがいをもち日々活動に取り組んでいます。仕事には定年がありますが、趣味には定年がありません。文化団体が、生涯の楽しみ・学びの場を見つけるきっかけになればと思っています。



たわらもと吹奏楽団

いいねであふれる 10年後の田原本の未来

まちの将来像

子どもから高齢者まで 誰もがいきいきとした
暮らしを楽しむまち たわらもと

2017年度からの10年間を展望した第4次総合計画。少子高齢化・人口減少時代においても、子どもたちがいきいきと自分らしさを育むことができ、若い世代が安心して子育てをしながら働き、住民の誰もが健康でいきいきを持って日々の暮らしを楽しむことのできるまちづくりを展開していきます。



1

子育ての願いを
かなえる
まちづくり

「子育てを楽しむことができるまち」の実現には、次代を担う子どもたちの笑顔が、まちにあふれていることが大切です。

そのため、若い世代がこの町で安心して、結婚・妊娠・出産・子育てができる環境を充実させていきます。また、幼児期の保育・教育は、生涯にわたる人格形成の基礎であることから、確かな教育とさまざまな学習の取り組みを通じて、子どもたちに対して質の高い教育の提供と心身の育成を促します。

さらに、教育大綱に基づき、地域らしい特色ある学校教育を充実させるとともに、生きる力を身につけることができるよう、さまざまな取り組みを実施します。



2

健康で安心な
暮らしを支える
まちづくり

「安心な暮らしを楽しむことができるまち」の実現には、住民一人ひとりが健康であることはもちろん、高齢化が進むなかで、ずっと健康に地域のなかで活躍し続けてもらうことが大切です。

そのため、お互いに支える共助の仕組みや、地域包括ケアシステムの構築などにより、高齢者福祉を充実させ、保健・医療の充実と連携の強化、介護予防の推進に取り組みます。

また、障がいのある人には、早期から切れ目のない支援を行い、社会的自立に向けた生活支援と就労支援を充実させます。

さらに、誰もが健康に暮らすことができるよう、社会保障の健全な運営と充実に取り組みます。



3

潤いや喜びを与える
学びとスポーツの
まちづくり

「学びやスポーツを楽しむことができるまち」の実現には、住民一人ひとりの個性が尊重され、それぞれが生きがいを持って暮らせることが大切です。

そのため、既存施設や地域資源などを活用し、さらなる学びとスポーツの機会を拡大するとともに、住民の積極的な参加を促します。

また、地域の歴史文化を次世代に引き継いでいくため、歴史文化資源の積極的な保存・活用と、それらに対する理解・愛着を深めてもらう取り組みを進めます。

一方、近年、人権に関する問題が複雑化するなか、誰もが互いに支え合い、人権が尊重される社会の実現に取り組みます。



4

安全で快適な
暮らしを支える
まちづくり

「日々の暮らしを楽しむことができるまち」の実現には、豊かな自然や奥深い歴史文化を感じる快適な住環境が確保され、災害に強く犯罪や交通事故のない、安心安全なまちであることが大切です。

そのため、環境とのバランスに配慮しながら、既存施設などを最大限に活用して計画的なまちづくりを進め、騒音やごみといった身近な対策も総合的に取り組みます。

多大な被害をもたらす自然災害に対しては、住民・自主防災組織・行政が、互いに協力して災害に強いまちづくりを進めるとともに、消防・救急体制の充実、交通安全対策、防犯体制の強化など、安心して暮らせるまちづくりを進めます。



5

賑わいと
活力あふれる
まちづくり

「まちの賑わいを楽しむまちづくり」の実現には、まちに賑わいと活力があふれていることが大切です。

そのため、田原本の豊かな田園都市を形づくっている農業の担い手の育成・支援や農産物のブランド化などの農業振興をはじめ、地域商工業への支援、立地の優位性を活かした積極的な企業誘致などを展開し、地域経済の活性化や、地域雇用の創出・拡大を図ります。

また、交流人口の拡大に向け、「道の駅」や「唐古・鍵遺跡史跡公園」などを活用した効果的な情報発信や継続的なイベントを実施するとともに、広域で観光振興に取り組むことで、観光客の増大を図り、関連産業の活性化につなげます。



6

住民とともに
実現する
まちづくり

「将来にわたって暮らしを楽しむことができるまち」の実現には、効率的・効果的な行財政運営を行うことが大切です。

そのため、住民主体のまちづくりを積極的に支援し、その担い手となる「人財」の育成や、参画と協働のまちづくりを進めるための情報共有を進めます。

さらに、税収の減収、社会保障費・公共施設等の維持管理費などの増加が予想されるなか、より一層の行財政改革に取り組み、成果を重視した効率的・効果的な行財政運営に努めます。また、ICT(情報通信技術)による住民サービスの提供や行政情報の公開、ビッグデータに基づく戦略的な行財政運営を図ります。



昭和40年 第37回全国高等学校選抜野球大会に田原本農業高等学校が会場

昭和39年 東京オリンピック聖火リレー通過

昭和37年 広報紙第1号を発刊

昭和34年 伊勢湾台風襲来

昭和34年 田原本町合併記念祝賀会開催

昭和33年 町役場庁舎落成

昭和30年頃 田原本駅前通り

田原本町 合併60年史

- 昭和31年 9月 多村川東村・平野村・都村・田原本町の5カ町村が合併
- 昭和32年 4月 大字「下之庄」を「三笠」に名称変更
初代町長に吉川要次郎氏が就任
- 5月 上水道通水式
- 7月 田原本町大字飯高・大垣・豊田・新ノ口・西新堂の5カ大字が榎原市へ境界変更
- 昭和33年 4月 田原本町体育協会が発足
旧田原本町全域で塵芥収集開始
- 7月 田原本町の町章を制定
田原本小学校と都小学校の統合により田原本小学校を設置
- 10月 田原本町大字松垣・遠田・海知・武蔵の4カ大字が天理市へ境界変更
- 町役場庁舎落成
- 昭和34年 12月 田原本町合併記念祝賀会開催
- 6月 田原本小学校舎落成
- 8月 法興寺小学校と唐古小学校の統合により北小学校を設置
- 昭和35年 2月 寺川の川幅拡張工事着工
- 9月 伊勢湾台風襲来
- 8月 北小学校舎落成
- 10月 田原本町国民健康保険事業開始
- 昭和36年 1月 田原本町商工会が発足
- 2月 町長に村井昌輝氏が就任
- 3月 田原本中学校舎落成
- 4月 千代小学校と多小学校の統合により南小学校を設置
- 昭和37年 9月 第二室戸台風襲来
南小学校舎落成
- 4月 為川小学校を東小学校に校名変更
- 9月 広報紙第1号発刊
- 12月 三笠・薬王寺線道路開通
- 昭和38年 2月 鏡作神社御田植踊り保存会発足
- 5月 第一体育館落成
- 7月 田原本町社会福祉協議会発足
- 10月 自動電話開始
- 昭和39年 3月 東小学校舎落成
- 5月 大安寺・金沢線道路開通
- 9月 東京オリンピック聖火リレー通過
- 11月 愛の鐘吹鳴開始
- 昭和40年 2月 町長に萩原善太郎氏が就任
第37回全国高等学校選抜野球大会に田原本農業高等学校が会場
- 3月 薬王寺浄水場完成
- 5月 日本体操祭奈良県大会が田原本中学校で開催
台風24号襲来
- 9月 田原本幼稚園創立50周年
- 10月 県道桜井・王寺線開通
- 昭和41年 2月 農免道路整備事業(阪手)金沢間完成
- 3月 田原本町合併10周年記念祝賀式典開催
- 9月 町長に堀口元一氏が就任
- 12月 平野小学校舎落成
- 昭和42年 2月 健康運動場(県下第1号)完成
第1回歩こう会開催
- 6月 鍵に歩道橋完成
- 昭和43年 12月 町が優良町村の全国表彰を受ける
第1回町政懇談会開催
- 5月 金沢に町営住宅完成
- 昭和44年 1月 NHKのど自慢素人演芸会開催
公舎工場を買収
- 7月 田原本町青年団結成
- 9月 町役場救急隊発足
- 11月 町長に櫻井忠良氏が就任
- 12月 町長に櫻井忠良氏が就任
- 昭和45年 12月 町長に櫻井忠良氏が就任
- 昭和46年 4月 中央公民館落成
- 6月 田原本中学校プール完成
- 昭和47年 6月 スポーツ少年団結成
- 10月 奈良県花き植木広域流通センター落成
- 昭和48年 3月 塵芥処理センター完成
- 4月 町内全域の塵芥収集開始
保育所落成
- 昭和49年 10月 山辺広域消防組合発足
- 1月 町役場にコンピュータ導入
- 12月 町長に櫻井忠良氏が就任(再選)
- 昭和50年 6月 老人福祉センター落成
- 昭和51年 2月 公共下水道事業に着手
県立高等養護学校が開校
- 4月 山辺広域消防組合機械消防署庁舎落成(業務を開始)
- 昭和52年 8月 唐古遺跡第3次発掘調査開始
遺跡の名称が唐古・鍵遺跡に改められる
- 12月 田原本郵便局舎落成
- 昭和53年 12月 町長に渡邊文次氏が就任
- 昭和54年 3月 奈良県心身障害者福祉センター落成
- 4月 北小学校・北幼稚園・平野幼稚園・金沢町営住宅総合落成式開催
- 寺川改修工事に伴い寺川橋完成
- 昭和55年 2月 新浄水場完成
「広報たわらもと」が毎月発行となる
- 4月 広報紙第100号発行
- 5月 公共下水道通水式(供用開始区域: 郭内、八幡町、三輪町、根太口、小室、旭町と新町の一部)
北中学校が開校
- 昭和56年 4月 第39回国民体育大会の開催地が奈良県に正式決定される。本町はバドミントン競技会場
解放センター落成
- 中央体育館落成
- 昭和57年 4月 台風10号とそれに続く大雨で町内に被害が出る(8:13)
- 11月 平野小学校創立50周年
- 12月 町長に渡邊文次氏が就任(再選)
- 昭和58年 3月 笠縫駅前自転車駐車場完成
県立志貴高等学校が開校
- 4月 浄化センター落成
- 9月 第39回国民体育大会「わかさ国体」リハーサル大会開催
- 12月 町の人口3万人を突破
- 昭和59年 4月 勤労者体育センター落成
田原本町商工会館落成
- 10月 第39回国民体育大会「わかさ国体」開催
本町ではバドミントン競技開催(10:13)
- 昭和60年 9月 清掃工場落成
- 10月 老人福祉センター浴場落成
- 昭和61年 8月 田原本町福祉作業所落成
田原本町合併30周年記念祝賀式典開催(町民憲章、町歌、町の木、町の花を制定)
- 9月 田原本警察署新庁舎落成
- 10月 唐古・鍵遺跡発掘50年記念講演会開催
- 12月 町長に渡邊文次氏が就任(三選)
- 昭和62年 6月 奈良県心身障害者リハビリテーションセンター落成
- 7月 図書館完成
- 平成2年 3月 田原本小学校屋内運動場落成
- 3月 町長に渡邊文次氏が就任(四選)
- 12月 奈良県健康づくりセンター落成
- 平成3年 3月 南小学校・北小学校屋内運動場落成
- 4月 田原本町身体障害者(児)福祉協議会結成
- 平成4年 5月 保健センター落成
- 7月 保健センターで休日診療を開始
- 平成5年 1月 南小学校プール完成
- 3月 北小学校プール完成
- 平成6年 5月 平成3年秋の唐古・鍵遺跡第47次調査で出土した「楼閣が描かれた土器片」を発表
- 6月 新庁舎建設のため飯庁舎(中央体育館)で業務を開始
- 平成7年 1月 新庁舎起工
- 3月 宮古保育園落成
- 平成8年 3月 平野小学校プール完成



平成4年 平成3年秋の唐古・鍵遺跡第47次調査で出土した「楼閣が描かれた土器片」を発表



昭和61年 田原本町合併30周年記念祝賀式典開催



昭和59年 第39回国民体育大会「わかさ国体」開催
本町ではバドミントン競技開催



昭和58年 町の人口3万人を突破



昭和57年 中央体育館落成



昭和52年 唐古遺跡第3次発掘調査開始
遺跡の名称が唐古・鍵遺跡に改名



昭和44年 NHKのど自慢素人演芸会開催



昭和42年 鍵に歩道橋完成



みんなが輝く 元気なまち

いいね!をもっと
たわらもと

TAWARAMOTO  ANNIVERSARY





町議会

田原本町歌

作詞：藤本武重
作曲：吉井邦彦

一、めぐる山々 みどりに映えて
光あふれる 明るい町よ

文化のかおり 歴史のしらべ
今につたえる 唐古 鍵遺跡(あと)

ふれあう心 ひとつ輪に
みんなで 手をとり

みんなで生きる 幸せ

あ、われらがふるさと

田原本 われらの町よ

二、大和 寺川 曾我 飛鳥川

清きながれよ 花さく町よ

実りゆたかに 祭りの太鼓

はたらく喜び 笑顔にひかる

むすぶ心も 和やかに

みんなで 肩くみ

みんなで歌う 楽しさ

あ、われらがふるさと

田原本 われらの町よ

三、うつる街並み 中街道

夢もひろがり 伸びゆく町よ

拓くあしたに 胸おどらせて

希望の足音 空にこだます

あわせる心 ひとすじに

みんなで つくり

みんなで歩む 喜び

あ、われらがふるさと

田原本 われらの誇り



田原本駅付近の動画が見れます



確かな運営 まちの行政

町民のために 町民と協働する行政・議会

少子高齢化などによる厳しい行財政運営が予想されるなか、行政では、議会の議決項目を含め、生活に関わるさまざまな施策を計画的に推進しながら、多様化が進む住民ニーズに対応できるよう、効率と効果を踏まえた行政サービス運営を進めています。

町議会では、まちの未来を方向付ける町政の運営方針や条例の制定・改廃、予算・決算などを審議しています。町議会は年4回の定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があり、選挙で選ばれた議員が、政策の最終決定や行財政運営の監視、町民からの請願などの審議を行い、その結果を行政に反映しています。

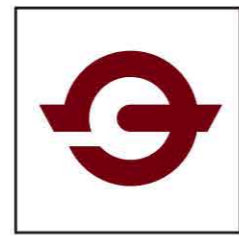
地方分権の時代を迎え、活力と魅力ある田原本町を創造するため、開かれた議会活動や行政広報を行い、町民と連携・協力する「協働」による地域づくりに取り組んでいます。



相談窓口



田原本町役場



町章

昭和33年7月1日制定



町の花 水仙 (すいせん)

昭和61年9月25日制定



町の木 いちいがし

昭和61年9月25日制定

田原本町民憲章

昭和61年9月25日制定

わたくしたちは田原本町民の一人であることを自覚し、平和でゆたかなまちをつくるためにこの憲章を定めます。

- 力をあわせ 美しいまち住みよいまちをつくりましょう
- 郷土に誇りをもち 文化の向上をめざすまちをつくりましょう
- 健全な心とからだをつくり 明るいまちをつくりましょう
- しごとによるこびをもち 活気あふれるまちをつくりましょう
- お互いに尊重しあい あたたかいまちをつくりましょう

散策イラストマップ

1 県史跡 黒田大塚古墳 (大字 黒田)



6世紀初頭の前方後円墳で、全長は86mを測る。6次に及び発掘調査で周濠や埴輪・蓋形木製品が出土した。奈良盆地低地部では、墳丘が残る数少ない古墳で県の史跡に指定されている。

2 鏡作神社 (大字 八尾)



天照国照日子火明命・石凝姥命・天糠戸命を祭神とする式内社。この地は古代鏡作集団がいたとされる鏡作郷「倭名抄」に比定され、神宝として「三神二獸鏡」が所蔵されている。

3 浄照寺



慶安4年(1651)、平野長勝によって創建。この地には教行寺が所在したが、平野氏との支配権をめぐる争いから退去を命じられ、跡地に浄照寺が建てられた。本堂は県の指定文化財となっている。

4 本誓寺



浄照寺と同様に、教行寺の跡地に建立され、平野家の菩提所と定められた。境内には、二代目長勝・九代目長発の霊廟が建てられている。

5 歴史ある町並み



文禄4年(1595)、平野権平長泰は「賤ヶ岳の戦い」での功績が認められ、田原本に五千石の領地が与えられた。二代目の長勝が陣屋を建造し(現町役場付近)、奈良と吉野を結ぶ交通の要衝として発展した。陣屋は残っていないが、古い町の面影がある。

6 津島神社



かつては紙園社と呼ばれ、牛頭天王を祭神とした。江戸時代に領主平野家の尊崇をあつめたが、平野氏の本貫地である尾張国の津島社も、牛頭天王を祭神としたため、明治2年(1869)、社名を津島神社と改めた。

7 樟の巨樹 (大字 薬王寺)



八幡神社境内にある巨木。高さ約30m、幹まわり約6mを測る。樹齢はおよそ550年と推定され、県の指定文化財(天然記念物)に指定されている。



8 唐古・鍵遺跡史跡公園 (平成30年オープン)

国史跡に指定された弥生時代を代表する環濠集落跡にできる史跡公園。当時の環濠や草木を復元して「弥生の風景」を再現すると共に、さまざまな「弥生の体験・学習」ができる。



動画を見る

9 千萬院 (大字 法貴寺)



もとは千萬寺と呼ばれ、法貴寺塔頭であった。法貴寺は聖徳太子の創建と伝えられ、後に秦河勝がこれを受け継いだとされている。千萬院の不動明王立像は平安後期の作とされ、国の重要文化財に指定されている。

10 池神社 (大字 法貴寺)



天万栲幡千千比売命・菅原道真を祭神とする式内社。秋の例祭には、各垣内から5台の山車が繰り出し、神事に彩りを加えている。

11 村屋神社 (大字 蔵堂)



弥富都比売命・大物主命を祭神とする式内社。「日本書紀」には、壬申の乱に際し大海人皇子軍に神託を与えたとの記述がある。境内にはイチイガシなどの極相林が残されており、県の天然記念物に指定されている。

12 補蔵寺 (大字 味間)



至徳元年(1384)に創建された。大和では初めて建立された禅宗寺院で、室町期には十市氏の菩提寺となった。「古事記」を編纂した太安万侶も祀られており、大和屈指の規模を誇る。また本殿は県指定文化財となっている。

13 秦楽寺 (大字 秦庄)



大化3年(647)、秦河勝の建立と伝えられる。本堂の千手観音像は、百濟から聖徳太子に献じられたもので、河勝が太子より賜ったものという。また境内の「阿字池」は、弘法大師が築造したと伝えられている。

14 多神社 (大字 多)



神武天皇・神八井耳命・神淳名川耳命・姫御神を祭神とする式内社。「古事記」を編纂した太安万侶も祀られており、大和屈指の規模を誇る。また本殿は県指定文化財となっている。